

## 地域文化財総合活用推進事業 実施計画

1 都道府県・市区町村名	南丹市	2 補助事業の種類	地域文化遺産活性化
3 実施計画の名称	森の京都「なんたん」エコミュージアム推進事業	【計画の改善時期】 平成 年度	
4 実施計画期間	平成 31 年度	～	平成 35 年度 5年以内としてください。
5 実施計画の概要			
<p>京都府では、森林率が8割を占めている中部地域において、豊かな自然環境を維持・保全する取組を強化するとともに、森の恵みを活かした食や伝統文化、産業など、森に包まれた暮らし方を「森の京都」スタイルとして発信することにより、交流産業の振興、森の魅力向上による林業の付加価値の向上を実現するため「森の京都」構想（平成27年6月）を策定し、京都府内では4つ目となった「京都丹波高原国定公園」の指定（平成28年3月）を契機に、森の京都エリアの美しい自然と豊かな森に育まれた文化や暮らしの魅力を伝える積極的な情報発信に取り組んでいる。</p> <p>森の京都を構成している亀岡市、南丹市、京丹波町、綾部市、福知山市においても、「森の京都」構想を基に、それぞれ5つの市町で「森の京都」マスタープランを策定している。</p> <p>南丹市においても「森の京都」推進計画を策定（平成28年4月）し、『豊かな「森」を次世代につなぐまちなんたん』をテーマに地域の豊かな自然や歴史・文化遺産を観光資源として活用し、地域の活性化を図るための施策や美しい故郷の暮らしや文化を将来に引き継ぐための各種施策に取り組んでいる。</p> <p>こうした中で、森の京都「なんたん」文化創生プロジェクト・森の京都「なんたん」エコミュージアム推進事業では、この「森の京都」構想と南丹市のマスタープランの具現化に向け、地域の人々の生活やその自然と文化及び社会環境の発展過程を史的に研究し、これらの文化遺産を現地において保存と育成、また展示することによって、南丹市全体を野外博物館『森の京都「なんたん」エコミュージアム』と称し、「南丹市全体が博物館」「市民一人ひとりが学芸員」を目指して、地域振興や観光・産業振興等に活用する総合的な事業を展開する。</p> <p>この事業においては、まず、森の恵みや歴史・文化遺産、生活文化の価値を体感・享受・供給できるコンテンツづくりに取り組み、それぞれ設定したテーマごとに制作する記録映像をデジタル化する。デジタル化した映像コンテンツは、この地域のケーブルテレビ局（南丹市情報センター）のコミュニティチャンネルで放送するほか、DVD化し、教育機関や行政機関に提供して、この地域の文化を次世代に継承、発展させるとともに地域を支える人材育成にも繋げる。</p> <p>さらに、これらの文化遺産等にQRコード付きのデジタル案内板を設置して、文化遺産等の「見える化」に取り組み、京都府の京都デジタルミュージアム「京都見聞録」に登録するとともに、独自に構築するデジタルアーカイブシステム『森の京都「なんたん」デジタルミュージアム』に蓄積・保存・公開することによって、森の京都「なんたん」の文化遺産等の魅力を国内外に発信することができる。</p> <p>また、この地域の自然・文化財等を紹介する公開講座の開催や域学公連携による観光ボランティア（地域学芸員）を養成し、教育や調査研究、観光振興等、南丹市の文化遺産を活用した新たな経済活動の創生を目指す。</p> <p>あわせて、元和5年（1619年）に小出吉親がこの地に立藩した「園部藩」が2019年で400年の節目の年を迎える。立藩400年を機に、園部城・城下町の歴史や文化を振り返り、新たな文化や魅力を創造し、次世代に伝承するため、シンポジウムの開催や園部藩ゆかりの日本最古の生身天満宮に現存する「生身天満宮祭礼絵巻」の復活などの事業を展開する。</p> <p>最後に、この地域の文化・伝統を巡る森の京都「なんたん」スタイルを深く理解し、体験してもらうためのモニターツアーも実施し、文化遺産等を活用した文化交流産業の振興による地域経済への波及効果の創出に努める。</p>			
6 実施体制			
<p>本事業においては、南丹市が全体計画の調整、事業の指導を実施する。主な担当は、企画・文化財・観光・道路を所管する部署で構成する「南丹市魅力創出プロジェクト会議」が担当する。</p> <p>事業の実施については、京都府、森の京都DMO、南丹市、南丹市商工会、南丹市美山観光まちづくり協会、南丹市内観光協会、園部町振興公社、丹波祭囃子保存会、生身天満宮氏子会等で構成する「森の京都「なんたん」エコミュージアム実行委員会」で実施する。</p>			
7 実施計画における目標と期待される効果		別紙①のとおり	
8 補助事業の概要	(1) 補助金額	～平成30年度交付決定額： 0 千円	平成31年度申請額： 4,920 千円
(2) 実施事業の概要		別紙②のとおり	

**9 その他計画実施により想定される効果（定性的な効果を記載）**

南丹市においては、市の目指すべき将来の方向性を明確に示した「第2次南丹市総合振興計画」（平成30年3月）を策定し、豊かな自然環境や歴史・文化資源などを活用し、まちの魅力を市内外に発信するとともに、地域資源を繋げた観光プログラムづくりやエコツーリズムの推進などにより、新たな魅力づくりに努めるとしている。

もう一つに京都府南丹広域振興局においても、南丹市をはじめ、近隣の亀岡市及び京丹波町の管内市町や関係団体等と連携しながら地域の歴史的、文化的、地理的条件を最大限に生かした地域づくりを進めるため「明日の京都丹波ビジョン」（南丹地域振興計画・平成27年度）を策定しその実現に取り組んでいる。このビジョンの施策の具体的な展開として、「地域に伝わる自然や歴史・文化をいかした地域づくり」を目指し、「森の京都」の中核をなす「京都丹波」が持つ豊かな自然、食材や農林水産物、伝統ある文化等の地域資源と交流基盤を最大限にいかし、地域のあらゆる人や団体の力を結集した取り組みを進め、「京都丹波の資源（ちから）をいかす交流・活力の京都」実現のため、この地域ならではの先進的な取組みを展開している。

森の京都「なんたん」エコミュージアム推進事業は、これらの計画やマスタープランが目指しているリーディングプロジェクトとして位置づけ、地域の「たから」である文化遺産はじめ、自然環境や生活スタイルなど、地域の魅力を創出・発信することによって、まちの活性化や観光振興への効果が期待できる。また、地域に暮らす人々が誇りをもち、市民が自の力で地域の文化遺産を守り、次世代に引き継ぎ、地域の発展に活用することが期待できる。

**10 その他事業（自主財源、民間団体、他省庁等からの補助（支援）を予定している事業など）**

事業概要：	
事業概要：	
事業概要：	

**11 「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等**

現在のところ「歴史文化構想」等の策定までは至っていないが、本事業の実施により、文化遺産等を広く普及し、行政や関係団体だけでなく、市民一人ひとりが地域の「たから」である文化遺産等を保存・継承・活用する意識を醸成することを目指し、今後の策定を検討する。

**12 担当部局**

地方公共団体 担当部局課	市長公室 企画財政課
-----------------	------------

## 7 実施計画における目標と期待される効果 別紙

目標区分 1 :	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分 1 :	地域の文化遺産関係資料館、博物館等の年間入館者数 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 1 :	歴史や文化を学ぶ機会を提供するため、南丹市文化博物館・日吉町郷土資料館の年間入館者数を増やす。	関連事業:	森の京都「なんたん」エコツーリズム			
目標値 1 :	【現状値】 平成 29 年度 6,375 人 ⇒ 【目標値】 平成 35 年度 6,700 人					
設定根拠 1 :	第2次南丹市総合振興計画で定めている目標指数で、郷土の歴史文化遺産に対する市民の理解を深め、共通の財産として愛護され、次世代に引き継がれるよう教育・啓発に努めるとしている。					
進捗状況 1 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	平成 35 年度	平成 36 年度	
人	人	人	人	人	人	
目標区分 2 :	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分 2 :	地域の文化遺産への来場者数 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 2 :	年間観光入込客数	関連事業:	森の京都「なんたん」エコツーリズム			
目標値 2 :	【現状値】 平成 29 年度 2,661 千人 ⇒ 【目標値】 平成 35 年度 2,700 千人					
設定根拠 2 :	第2次南丹市総合振興計画で定めている目標指数で、広大な自然環境、伝統的かやぶき集落や文化遺産を有している市の豊かな観光資源を生かした質の高い観光プログラムを提供するとしている。					
進捗状況 2 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	平成 35 年度	平成 36 年度	
千人	千人	千人	千人	千人	千人	
目標区分 3 :	伝統文化の継承体制の維持・確立					
評価指標区分 3 :	その他 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 3 :	南丹市の文化遺産を活用した新たな経済活動の創生を目指すため、観光ボランティア(地域学芸員)20人養成する。	関連事業:	森の京都「なんたん」カレッジ			
目標値 3 :	【現状値】 平成 30 年度 0 人 ⇒ 【目標値】 平成 35 年度 100 人					
設定根拠 3 :	自然環境・歴史・文化財等の語り部となる観光ボランティアとして、また地域の住民が自らで文化資源を発掘できる調査研究の技術を修得した「地域学芸員」を養成する専門性の高い講座を実施する。					
進捗状況 3 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	平成 35 年度	平成 36 年度	
人	人	人	人	人	人	



事業④：	森の京都「なんたん」エコツーリズム園部藩のあゆみシンポジウム	実施団体：	森の京都「なんたん」エコミュージアム推進計画実行委員会		
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 31 年度		
事業概要：	元和5年（1619年）に小出吉親がこの地に立藩した園部藩は、2019年で400年の節目の年を迎える。この立藩400年を機に、園部城・城下町の歴史や文化を振り返り、新たな文化や魅力を創造し、次世代に伝承するため、近世日本史研究家を招いてシンポジウム「園部藩のあゆみ」を開催する。				
評価指標区分：	・その他	(具体的な指標は次のとおり)			
具体的な指標：	地域の伝統文化の保存活動にかかわる（団体所属など）住民数				
目標値：	【現状値】 平成 30 年度 0 人 ⇒ 【目標値】 平成 31 年度 80 人				
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率				
平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	平成 35 年度	平成 36 年度
人	人	人	人	人	人
事業⑤：	森の京都「なんたん」エコツーリズム「蘇れ。生身天満宮祭礼絵巻」	実施団体：	森の京都「なんたん」エコミュージアム推進計画実行委員会		
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 31 年度		
事業概要：	寛延3年（1750年）第5代園部藩主小出英持公が、往古からの祭祀を重んじ、特命により藩費による「神幸行列」を定めた。生身天満宮に現存する「祭礼絵巻」に総勢500人に及ぶ豪華絢爛な「神幸行列」の様子が描かれている。立藩400年を機にこの「生身天満宮祭礼絵巻」を復活させるため「蘇れ。生身天満宮祭礼絵巻」を実施する。				
評価指標区分：	・その他	(具体的な指標は次のとおり)			
具体的な指標：	地域の伝統文化の保存活動にかかわる（団体所属など）住民数				
目標値：	【現状値】 平成 30 年度 50 人 ⇒ 【目標値】 平成 35 年度 100 人				
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率				
平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	平成 35 年度	平成 36 年度
人	人	人	人	人	人
事業⑥：	森の京都「なんたん」エコツーリズム モニターツアー	実施団体：	森の京都「なんたん」エコミュージアム推進計画実行委員会		
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 35 年度 ～ 平成 35 年度		
事業概要：	森の京都「なんたん」エリアの歴史的魅力や特色を通じて、この地域の文化・伝統を語る森の京都「なんたん」スタイルを広く理解し、「食」「産業」「暮らし」を体験してもらうためのモデルコースやツアーの造成を目的に『森の京都「なんたん」モニターツアー』を実施する。				
評価指標区分：	・その他	(具体的な指標は次のとおり)			
具体的な指標：	モニターツアーで造成した文化遺産を巡る体験ツアーの利用者数（年間1組10人程度で5組）				
目標値：	【現状値】 平成 30 年度 0 人 ⇒ 【目標値】 平成 35 年度 50 人				
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率				
平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	平成 35 年度	平成 36 年度
人	人	人	人	人	人